

平成 19 年 度

予 算 概 要



公立大学法人 横浜市立大学
YOKOHAMA CITY UNIVERSITY

公立大学法人横浜市立大学 平成19年度予算について

法人化3年目を迎える平成19年度は、中期計画（平成17年度～平成22年度）も中盤に入り、中期目標の実現にあたり重要な局面を迎える1年となります。予算案の編成にあたり、大学が「教育重視・学生中心・地域貢献」という基本方針のもと自主自立的に運営され、大学・病院の魅力を最大限に向上し、横浜市立大学が真に「市が有する意義ある大学」となるよう、予算編成方針を充分踏まえ、法人の教職員が一体となって予算編成に取り組みました。

また、法人化のメリットを活かして複数年契約の導入や物品の一括購入を推進するとともに、寄附金収入の拡大に向けた取組を進めるなど、安定した経営基盤の確立を進め、様々な施策に必要な財源の捻出を行いました。

第1 教育を重視する大学運営の取組

幅広い教養と専門的能力の育成を目指す教育を重視する大学として、教養教育と専門教育を有機的に連携させ21世紀を切り拓く力を育てる「実践的な教養教育」を行い、時代の変化に対応しつつ社会を支えていく人材の育成を図ります。

今年度はファカルティ・ディベロップメント（FD：授業方法・内容を改善・向上させるための組織的な取組）専任の人員を配置し、教育活動支援の取組を進めるほか、学生教育の質を一層向上させたり、新たな教育分野を開拓するための取組を戦略的に進めます。

また、英語教育においては、教育プログラム担当の専任教員を採用し、教育内容の企画・立案・実施を担う「プラクティカル・イングリッシュ・センター」を設置するほか、英語による授業の拡大を行うなど、英語教育の充実に重点的に取り組みます。

第2 学生を中心とした大学運営の取組

学生の学習成果の最大化に向け、学習環境の充実・キャリア開発支援・経済的支援等の学生支援を実施するとともに、可能な限り学生の声を大学運営に反映してまいります。

今年度は、従来から実施している奨学資金貸付金制度に加え、突発的な事故等に対応した一時金制度の創設を行うとともに、成績優秀者への特待生制度を創設し、優秀な学生の入学確保や入学後の継続した学習意欲の向上に努めるなど、学生の学習支援の充実に努めます。また、教室・ゼミ室の改修や教育・研究に必要な機器の充実、学生の居場所の確保

など、学生のキャンパスライフの質を向上するための取組を進めるとともに、大学の新たな魅力づくりとして、校舎の老朽化が進む金沢八景キャンパスの再整備構想の検討を行います。また、学生からの要望が高い図書資料の充実についても引き続き推進し、学生が勉学に励むための環境の充実に努めます。

第3 地域に貢献する大学運営の取組

横浜市民に支えられた大学として、大学の人的・知的財産を活用し、地域への貢献を一層推進してまいります。

今年度は基礎医学の研究成果を疾患の予防、診断、治療法など臨床現場で実際に役立つようにするトランスレーショナルリサーチ体制を確立するため、先端医科学研究センターの整備を行うとともに、重粒子線がん治療に対応できる人材を育成するための取組を進めるなど、横浜市の重要施策についても重点的に取り組み、さらなる地域社会への貢献を推進します。

第4 地域医療の充実に貢献する大学附属2病院の取組

附属病院及び附属市民総合医療センター（以下「センター病院」という。）は、大学附属の病院として、医療安全管理の徹底及び患者本位の医療に配慮しつつ、高度で安全な医療を常に提供します。また、医師をはじめとする医療関係者の育成・確保に努めるとともに、医学研究・開発を推進し、地域医療の充実に貢献してまいります。

特に、産科、小児科等の医師不足分野においては、ワークシェアリングなど女性医師の勤務環境の改善等を実施し、医師の育成・確保を図り、医師の安定供給に努めます。

附属病院では、特定機能病院及び地域がん診療連携拠点病院として、高度・先進医療やがん診療機能の向上に取り組んでまいります。また、医療の安全性や患者サービスの向上等を目指し、電子カルテシステムの導入に着手します。さらに、シミュレーションセンターにトレーニングシミュレーター等の機器を導入するとともに、指導医を配置し、若手医師、研修医、看護師等の技術訓練や技術評価を行い、医療機能の向上を図ります。

センター病院では、三次救急機能を備えた病院として、難度の高い急性期医療の展開や診療科及び病棟の再編を実施することによる医療提供体制の充実に努めるとともに、地域の周産期医療機関との連携を強化します。さらに、災害医療拠点病院として、災害発生時における受入体制の強化や医療支援体制の充実に取り組みます。

〔目 次〕

公立大学法人横浜市立大学 予算 総括表・・・・・・・・・・ 1 頁

平成19年度予算における主な事業・・・・・・・・・・ 2 頁

大 学

大学部門予算・・・・・・・・・・ 3 頁

1 教育を重視する大学運営の取組・・・・・・・・・・ 4 頁

2 学生を中心とした大学運営の取組・・・・・・・・・・ 5 頁
(学生支援の強化)

3 地域に貢献する大学運営の取組・・・・・・・・・・ 6 頁

附属2病院

4 地域医療の充実に貢献する大学附属2病院の取組・・ 7 頁

附属病院部門予算・・・・・・・・・・ 9 頁

附属市民総合医療センター部門予算・・・・・・・・・・ 11 頁

【参考 1】 運営交付金の考え方・・・・・・・・・・ 13 頁

【参考 2】 平成19年度 収支計画・・・・・・・・・・ 14 頁

【参考 3】 横浜市一般会計が承継した横浜市立大学に

かかる市債の状況・・・・・・・・・・ 14 頁

公立大学法人横浜市立大学 予算 総括表

(単位：千円)

| | 区 分 | 本 年 度 | 前 年 度 | 差 引 | 伸 び 率 |
|--------|-----------------------------|-------------------|-------------------|------------------|-------------|
| 支 出 | 大 学 費 | 11,829,592 | 11,283,555 | 546,037 | 4.8% |
| | 附 属 病 院 費 | 19,337,807 | 18,226,017 | 1,111,790 | 6.1% |
| | セ ン タ ー 病 院 費 | 19,888,000 | 19,851,616 | 36,384 | 0.2% |
| | 支 出 合 計 | 51,055,399 | 49,361,188 | 1,694,211 | 3.4% |
| 収 入 | 大 学 収 入 | 3,988,457 | 3,528,373 | 460,084 | 13.0% |
| | 附 属 病 院 収 入 | 15,216,390 | 14,355,313 | 861,077 | 6.0% |
| | セ ン タ ー 病 院 収 入 | 17,988,707 | 17,750,113 | 238,594 | 1.3% |
| | 運 営 交 付 金 ・ 長 期 貸 付 金 | 13,185,947 | 13,727,389 | △541,442 | △3.9% |
| | 目 的 積 立 金 取 崩 収 入 | 898,917 | - | 898,917 | 皆 増 |
| | 収 入 合 計 | 51,278,418 | 49,361,188 | 1,917,230 | 3.9% |

平成19年度予算における主な事業

【教育を重視する大学運営の取組】

◇教育内容の充実

117,952 千円

ファカルティ・ディベロップメント（FD：授業方法・内容を改善・向上させるための組織的な取組）専任の人員を配置し、教育活動支援の取組を進めるほか、学生教育の質を一層向上させたり、新たな教育分野を開拓するための取組を戦略的に進めます。英語教育においては、教育プログラム担当の専任教員を採用し、教育内容の企画・立案・実施を担う「プラクティカル・イングリッシュ・センター」を設置します。また、授業のクラス人数を最適化し、よりきめ細かな学習指導を行うほか、英語による授業を拡大するなど英語教育の充実を図ります。

【学生を中心とした大学運営の取組（学生支援の強化）】

◇奨学金制度の充実

97,288 千円

従来から行っている奨学資金貸付金制度に加え、突発的な事故等に対応した一時金制度の創設を行うとともに、成績優秀者への特待生制度を創設し、市大への優秀な学生の入学確保や入学後の継続した学習意欲の向上に努めます。

【地域に貢献する大学運営の取組】

◇先端医科学研究センターの研究設備整備

78,000 千円

先端医科学研究センターでは、医療現場から得られる有用な患者検体を有効活用し、基礎医学を臨床医学へ応用することによって、最先端の医科学研究成果を創出するとともに、この研究成果を有用に社会還元するためのシステムを構築します。今年度は約1,000 検体を収集するとともに、製薬企業等との共同研究の創出及び国等の大型研究プロジェクトの獲得などに取り組みます。

◇重粒子線がん治療にかかる人材育成

11,000 千円

治療効果が高く、副作用が小さいなど、患者様の「生活の質」の確保に優れた先進的治療方法として注目されている重粒子線がん治療に対応できる専門職種の人材を育成するため、関連施設へ職員の研修派遣に向けて調整を進めます。

【地域医療の充実に貢献する大学附属2病院の取組】

◇医師不足診療科対策の推進

90,000 千円

産科、小児科等の医師の不足分野においては、ワークシェアリングなど女性医師の勤務環境の改善、研修環境の充実や後期研修医の増員等を実施し、医師の育成・確保を行い、医師の安定供給に努めることにより地域医療の充実に貢献します。

◇電子カルテシステムの導入

660,000 千円

「市民が心から頼れる病院」として、高度でかつ安全な医療を提供するために電子カルテシステムを導入します。導入により、会計や薬待ち時間の短縮化、検査の迅速化が実現されるとともに、診療情報を画面で分かりやすく説明するなど、患者様本位の医療に活用します。

[大学部門予算]

(単位:千円)

| | 本年度 | 前年度 | 差引 | 備考 |
|---------------|-------------------|-------------------|----------------|-------|
| 支出計 | 11,829,592 | 11,283,555 | 546,037 | |
| 経営企画費 | 7,209,435 | 7,194,659 | 14,776 | 人件費含む |
| 国際総合科学部費 | 773,825 | 821,285 | △47,460 | |
| 医学部費 | 988,173 | 824,927 | 163,246 | |
| 共通教養費 | 129,505 | 80,096 | 49,409 | |
| 学生支援費 | 179,647 | 128,317 | 51,330 | |
| アドミッションズセンター費 | 51,967 | 37,976 | 13,991 | |
| 研究推進費 | 1,690,963 | 1,437,028 | 253,935 | |
| 国際化推進費 | 46,953 | 33,807 | 13,146 | |
| エクステンションセンター費 | 62,080 | 62,063 | 17 | |
| 学術情報センター費 | 284,879 | 266,659 | 18,220 | |
| 営繕費 | 146,565 | 147,099 | △534 | |
| 施設整備費 | 265,600 | 249,639 | 15,961 | |
| 収入計 | 11,829,592 | 11,283,555 | 546,037 | |
| 授業料等収入 | 2,694,949 | 2,492,653 | 202,296 | |
| その他収入 | 1,293,508 | 1,035,720 | 257,788 | |
| 運営交付金 | 7,447,299 | 7,755,182 | △307,883 | |
| 目的積立金取崩収入 | 393,836 | - | 393,836 | |

1 教育を重視する大学運営の取組

事業内容

幅広い教養と高い専門的能力の育成を目指す実践的な国際教養大学を実現するため、自らの課題を見つけ探求する積極的な姿勢と幅広い教養に支えられた高い専門的能力を有するとともに、豊かな人間性と倫理観を備えた人材育成を目標に教育を行います。

学部教育においては、全学生が「幅広い教養と高い専門的能力、豊かな人間性・倫理観」を修得するベースとなる共通教養教育を引き続き行います。特に、英語教育では、教育プログラムを担当する専任教員を配置し、英語教育の充実を図ります。

国際総合科学研究科と医学研究科による大学院教育では、学部教育を基礎とした専門教育を行い、高度な専門的職業人及び研究者としての人材を育成します。

さらに、優秀な学生を確保するという観点から、教育内容や入試制度について、受験生に対して積極的な広報活動を実施します。

さらに、教育活動支援の取組を進める専門職を配置し、学生教育の質の向上を図る一方、文部科学省の特色ある大学教育支援プログラムや魅力ある大学院教育イニシアティブなど、補助金を活用した事業を実施するほか、学生教育の質を更に向上させたり、新たな教育分野を開拓するための取組を戦略的に進めます。

[本年度の主な事業内容]

| | |
|---|-------------------|
| 1 学部及び大学院教育の充実 | 807,855 千円 |
| (1) 国際総合科学部教育の充実 | |
| ・ 3年次カリキュラムに対応した先端的教育・研究用の実験機器等の整備《 拡充 》 | |
| (2) 医学部教育の充実 | |
| ・ 先端研究や新技術を医学教育・研究に取り入れるための機器整備《 拡充 》 | |
| ・ 4年制看護学科の授業・演習に必要な教育環境の整備 | |
| ・ 実践的医療安全教育の充実《 拡充 》 | |
| (3) 大学院教育の充実 | |
| ・ 学部での専門（教養）教育と連動した実践的で高度な専門教育の実施 | |
| ・ 外部研究機関等との連携による教育研究活動の一層の充実 | |
| ・ 臨床治験推進リーダー養成プログラムの推進《 新規 》 | |
| 2 英語教育の充実 | 96,476 千円 |
| ・ 英語教育プログラムを担当する専任教員配置《 新規 》 | |
| ・ 教育内容の企画・立案・実施を担うプラクティカル・イングリッシュ・センターの設置《 新規 》 | |
| 3 教育活動支援の充実 | 2,976 千円 |
| ・ ファカリティ・デベロップメント（FD：授業方法・内容を改善・向上させるための組織的な取組） 専任の職員配置による教育活動支援の取組推進《 新規 》 | |
| 4 横浜市大ブランド創出事業《新規》 | 15,000 千円 |
| 5 学生募集のための入試広報の充実《拡充》 | 25,007 千円 |
| ・ 大学案内の内容充実・部数増、オープンキャンパスの開催等 | |
| ・ 学部広報・大学院広報媒体の充実強化 | |

2 学生を中心とした大学運営の取組（学生支援の強化）

事業内容

学生が大学生活をより実りあるものとするため、学習に専念できる環境づくりの支援を行うとともに、大学生活の中での体験を通じ自己の成長が実現できるよう、様々な面から支援します。

進路・就職対策については、多くの企業との交流の機会の拡充、職業を知る機会の提供を通じて、職業観の醸成を図ります。また、充実した学生生活を支援するため、サークル活動への支援や心身の健康相談等を引き続き実施します。

また、従来から実施している奨学資金貸付金制度に加え、突発的な事故等に対応した一時金制度の創設を行うとともに、成績優秀者への特待生制度を創設し、市大への優秀な学生の入学確保や入学後の継続した学習意欲の向上に努めます。

国際化については、国際交流ラウンジの設置など、グローバルな人脈形成がキャンパス内で可能となるような諸事業を展開します。また、国際交流については協定校等との留学プログラムを充実させるなど、学生に多様な海外修学の機会を提供します。

施設・設備については、引き続き既存施設や設備の改修を行い、新しい教育環境に対応した整備を行うとともにキャンパスアメニティの向上に努めるほか、金沢八景キャンパスの動物飼育舎については、基準を満たした、清潔で安全な施設となるよう整備を行います。さらに、老朽化した本校舎の建て替え、耐震改修を視野にいたした金沢八景キャンパスの再整備構想の検討を行います。また、ネットワークなどIT基盤については、引き続き安全性の確保や安定稼働に努めます。

学術情報センターでは、学習環境の充実を図るため、開館時間の延長や土日開館を引き続き実施します。また、新たに語学実習室（LL 教室）の土日開館を開始し、英語のヒアリングやリスニング能力の向上のため、eラーニング利用環境の一層の充実を図ります。

[本年度の主な事業内容]

| | |
|---|-------------------|
| 1 就職対策の充実 | 15,770 千円 |
| ・合同企業セミナー、職業研究入門、公務員講座・各種ガイダンスや就職相談の実施 ・学生と卒業生との交流の機会である「キャリアサポーターとの集い」の開催 | |
| 2 学生生活の支援《拡充》 | 41,609 千円 |
| ・サークル活動支援や定期健康診断、学生相談及びメンタルヘルス相談等 | |
| 3 奨学金制度による学生支援《拡充》 | 97,288 千円 |
| 4 国際交流学生派遣事業・国際学術交流事業 | 26,539 千円 |
| ・授業における海外教育活動への支援、海外奨学留学プログラム導入の検討等 ・協定校への派遣留学プログラムの企画及び運営等 | |
| 5 国際化戦略推進事業 | 9,072 千円 |
| ・特待留学生受け入れプログラムの実施、国際交流ラウンジの設置及び運営支援等 | |
| 6 新たな教育環境に対応した施設設備の整備（一部再掲） | 414,315 千円 |
| ・新たな教育環境に対応した校舎、研究棟の改修や空調設備の設置、既存設備の更新等 ・新たな大学の魅力づくりとなる施設計画、金沢八景キャンパス再整備構想の検討調査《新規》 ・先端的な教育研究機器の更新・製備《拡充》 | |
| 7 学術情報センターの学習環境の充実 | 284,879 千円 |
| ・LL 教室の土日開館の開始、電子ブック等の学生用図書資料の充実等 | |

3 地域に貢献する大学運営の取組

事業内容

横浜市立大学は、横浜市が有する意義ある大学として、大学の人的・知的財産を活用し、産学連携や生涯学習の推進、市民医療の向上など、地域貢献を一層推進してまいります。

研究面では、外部資金の獲得に努めるとともに、国際的な学術の進展、地域・社会に貢献できる成果を生み出すための研究、及び質の高い教育を実現するための研究を進めます。また、木原生物学研究所では、6000系統のコムギの遺伝資源等を有効に活用するため、理化学研究所横浜研究所等外部機関と連携を図り、最先端の植物ゲノム科学を研究・教育する研究所を目指したプロジェクトを推進します。

生涯学習面では、学内に「エクステンション委員会」を設置して事業の円滑な推進を図ります。学部内各学科・コースごとに講座を開催するほか、外部との連携による専門講座も企画し、市民に多様な学習機会を提供します。

医学面では、先端医科学研究センターにおいて、市民の健康維持や医療水準の向上を目的としてバイオバンク機能を活用し、がん等の原因究明と最先端の治療法や創薬など臨床応用につながる開発型医療を目指した研究を推進します。また、従来の手術や化学療法に比べ、機能欠損や副作用による身体的負担が少ないなど、「生活の質」の確保に優れた先進的治療法として期待されている重粒子線がん治療の導入に向けて、専門的で高度な知識や技術を有した専門人材育成などの事業を推進するとともに、患者様にとって最適な治療を行う「最適がん医療システム」の構築による市民医療の向上、ひいては安心して暮らせる横浜に貢献することを目指します。更に、産婦人科医や小児科医などの医師不足問題への対応や地域医療の充実に向けた取組を進めます。

[本年度の主な事業内容]

- | | |
|---|-------------------|
| 1 戦略的研究の推進 | 153,206 千円 |
| ・大学の重点研究分野、若手人材育成、地域貢献を対象とした研究の推進 | |
| 2 産学連携の推進 | 998,468 千円 |
| ・研究成果の特許化、企業への技術移転など、知的財産を機関として管理活用 | |
| 3 生涯学習の推進《拡充》 | 62,080 千円 |
| ・利便性の高い施設の最大限の利用を目指して、教養講座、専門講座、医療・相談講座を中心に、様々な取組を企画・実施します。 | |
| 4 先端医科学研究センターの研究設備整備《拡充》 | 78,000 千円 |
| ・検体の収集や研究開発に必要な機器等の整備 | |
| 5 重粒子線がん治療にかかる人材の育成《新規》 | 11,000 千円 |
| ・関係施設等へ職員等を研修派遣 | |
| 6 学術情報センター（図書館）の利用機会拡充《拡充》（再掲） | 185,492 千円 |
| ・図書貸出や情報探索講習会の継続実施、新たに医療関係者を対象に講習会を開始します。 | |

4 地域医療の充実に貢献する大学附属2病院の取組

附属病院及び附属市民総合医療センター(センター病院)は、大学附属の病院として、患者本位の高度で安全な医療を提供してまいります。運営にあたっては、2病院の役割や位置づけを考慮しつつ、それぞれの特性を最大限発揮するとともに、自立的な経営を目指し、引き続き中期計画を確実に推進してまいります。

(1) 平成19年度予算 事業費

◇附属病院 : 19,337,807千円

◇附属市民総合医療センター : 19,888,000千円

(2) 附属2病院の主な役割・位置づけ

◇附属病院

- ・ 特定機能病院として、幅広い分野で高度・先進医療等を積極的に行います。
- ・ 医学部等と連携し研究・開発・提供に携わるほか臨床医学研究を積極的に行います。
- ・ 医学部学生の教育については、臨床実習を中心に全般にわたり関わります。
- ・ 他の特定機能病院の経営手法も考慮し、教育・研究のバランスを図りながら収支改善を進めます。

◇附属市民総合医療センター

- ・ 大学病院として、幅広い分野の三次救急・難度の高い急性期医療を担います。
- ・ 地域医療機関と密接な連携を進める地域医療を支援する病院を目指します。
- ・ 生涯学習も含めた医師の卒後教育にも対応してまいります。
- ・ 市民医療に徹した病院として、より自立した経営を見据え、地域中核病院や市民病院等の経営手法を参考に対応します。

(3) 規模・診療機能等

◇附属病院

| | | | |
|-------|---|-----|------|
| 開院年月日 | 平成3年7月1日 | 病床数 | 623床 |
| 所在地 | 横浜市金沢区 | | |
| 診療科 | (27診療科) ※19年3月現在 リウマチ・血液・感染症内科、呼吸器内科、腎臓・高血圧内科、循環器内科、消化器内科、内分泌・糖尿病内科、神経内科、脳卒中科、神経科、小児科、一般外科、心臓血管外科・小児循環器科、消化器・肝移植外科、臨床腫瘍科・乳腺外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、歯科・口腔外科、麻酔科、脳神経外科、リハビリテーション科、形成外科、小児精神神経科 | | |

◇附属市民総合医療センター

| | | | |
|-------|--|-----|--------------------------|
| 開院年月日 | 平成12年1月1日 | 病床数 | 720床 (一般:670床、精神:50床) |
| 所在地 | 横浜市南区 | | |
| 診療科 | (9疾患別センター、18診療科) ※ 19年度診療科再編後 高度救命救急センター、総合周産期母子医療センター、リウマチ膠原病センター、炎症性腸疾患 (IBD) センター、精神医療センター、心臓血管センター、消化器病センター、呼吸器病センター、小児総合医療センター、総合診療科、血液内科、腎臓内科、内分泌・糖尿病内科、神経内科、乳腺・甲状腺外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科・腎移植科、婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、歯科・口腔外科・矯正歯科、麻酔科、脳神経外科、リハビリテーション科、形成外科 | | |

(4) 附属2病院の取組内容

ア 安全で安心できる医療の提供

安全管理を病院運営の基本とし、インフォームドコンセントの一層の充実など、これまで培ってきた医療安全への取組と安心できる医療の提供を引き続き推進します。

イ 健全な病院経営への取組

職員の経営参画意識の向上に取り組み、病床利用率の維持・向上など診療収入の確保に努めるとともに、経費削減や効率的な執行管理を図り、より自立的かつ持続的な健全経営の確立を目指します。

ウ 地域医療への貢献と患者サービスの向上

地域医療機関との連携を一層推進し、地域医療の充実・向上に貢献していくとともに、時代のニーズにあわせた医療サービスを提供するなど、患者の満足度の向上に努めます。

エ 高度先進医療の推進

先進医療推進センターを整備し、高度かつ先進的な医療を行うための研究及び技術開発を積極的に行い、大学病院としての特性を引き続き発揮します。

オ 良質な医療人の育成

大学病院の使命である医療人の育成について、学生教育から生涯学習まで幅広い教育を実施し、良質な医療人を引き続き輩出してまいります。

[附属病院部門予算]

(単位：千円)

| | 本年度 | 前年度 | 差引 | 備考 |
|------------------------------|-------------------|-------------------|------------------|----|
| 収益的收入計 A | 18,254,629 | 17,150,817 | 1,103,812 | |
| 入院収入 | 10,218,064 | 9,453,022 | 765,042 | |
| 外来収入 | 4,358,534 | 4,267,096 | 91,438 | |
| その他自己収入 | 639,792 | 635,195 | 4,597 | |
| 運営交付金 | 2,867,939 | 2,795,504 | 72,435 | |
| 目的積立金取崩収入 | 170,300 | - | 170,300 | |
| 収益の支出計 B | 18,079,603 | 17,150,817 | 928,786 | |
| 人件費 | 8,574,723 | 8,109,359 | 465,364 | |
| 材料費 | 5,369,771 | 5,091,993 | 277,778 | |
| 経費等 | 4,135,109 | 3,949,465 | 185,644 | |
| 収益の収支差引 C = A - B | 175,026 | - | 175,026 | |
| 資本的收入計 D | 1,258,204 | 1,075,200 | 183,004 | |
| 補助金収入 | - | - | - | |
| 運営交付金 | 151,750 | 414,200 | △262,450 | |
| 長期借入金 | 978,000 | 661,000 | 317,000 | |
| 目的積立金取崩収入 | 128,454 | - | 128,454 | |
| 資本の支出計 E | 1,258,204 | 1,075,200 | 183,004 | |
| 施設整備経費 | 1,106,454 | 1,075,200 | 31,254 | |
| 長期借入金償還元金 | 151,750 | - | 151,750 | |
| 資本の収支差引 F = D - E | - | - | - | |

[附 属 病 院]

1 主な収入の状況

| | 本年度 | 前年度 | 差引 |
|--------------|---------------|--------------|------------|
| 入院収入 | 10,218,064 千円 | 9,453,022 千円 | 765,042 千円 |
| 入院単価 | 48,709 円 | 44,700 円 | 4,009 円 |
| 年間入院患者数 | 209,777 人 | 211,477 人 | △1,700 人 |
| (1日あたり入院患者数) | 573 人 | 579 人 | △6 人 |
| 外来収入 | 4,358,534 千円 | 4,267,096 千円 | 91,438 千円 |
| 外来単価 | 10,010 円 | 9,800 円 | 210 円 |
| 年間外来患者数 | 435,418 人 | 435,418 人 | — 人 |
| (1日あたり外来患者数) | 1,785 人 | 1,777 人 | 8 人 |

2 主な事業内容

◇医療の安全性や患者サービスの向上、チーム医療の推進、経営の効率化などを目指し、中期計画に基づき電子カルテシステムの導入に着手します。《新規》

| 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 計 |
|------------|------------|------------|--------------|
| 660,000 千円 | 740,000 千円 | 460,000 千円 | 1,860,000 千円 |

財源：長期借入金（横浜市からの借入れ）

◇立体駐車場を整備し、患者用の駐車スペースの拡充を図ります。《新規》

◇地域がん診療連携拠点病院の指定に伴い、がん診療機能と組織体制の充実を図ります。《新規》

◇産科、小児科等の医師の不足分野においては、医師の育成・確保を図るため、ワークシェアリング^{※1}など女性医師の勤務環境の改善、研修環境の充実や後期研修医増員等を実施し、医師の安定供給に努めることにより地域医療の充実に貢献してまいります。《新規》

◇シミュレーションセンターに腹腔鏡下手術手技トレーニングシミュレーター等の機器を導入するとともに、指導医を配置することにより、若手医師、研修医、看護師等の技術訓練や技術評価を行い、医療機能の向上を図ります。《新規》

※1 ワークシェアリング…

雇用の維持・創出を図ることを目的として、労働時間を短縮し、雇用・賃金・労働時間の適切な配分を目指すもの。

[附属市民総合医療センター一部門予算]

(単位：千円)

| | 本年度 | 前年度 | 差引 | 備考 |
|------------------------------|-------------------|-------------------|----------------|----|
| 収益的収入計 A | 19,606,993 | 19,574,616 | 32,377 | |
| 入院収入 | 12,952,176 | 12,757,888 | 194,288 | |
| 外来収入 | 4,084,560 | 4,045,709 | 38,851 | |
| その他自己収入 | 951,971 | 923,516 | 28,455 | |
| 運営交付金 | 1,465,959 | 1,847,503 | △381,544 | |
| 目的積立金取崩収入 | 152,327 | - | 152,327 | |
| 収益的支出計 B | 19,559,000 | 19,574,616 | △15,616 | |
| 人件費 | 10,143,202 | 10,124,363 | 18,839 | |
| 材料費 | 5,595,018 | 5,630,890 | △35,872 | |
| 経費等 | 3,820,780 | 3,819,363 | 1,417 | |
| 収益的収支差引 C = A - B | 47,993 | - | 47,993 | |
| 資本的収入計 D | 329,000 | 277,000 | 52,000 | |
| 補助金収入 | - | 23,000 | △23,000 | |
| 運営交付金 | 75,000 | 54,000 | 21,000 | |
| 長期借入金 | 200,000 | 200,000 | - | |
| 目的積立金取崩収入 | 54,000 | - | 54,000 | |
| 資本的支出計 E | 329,000 | 277,000 | 52,000 | |
| 施設整備経費 | 254,000 | 277,000 | △23,000 | |
| 長期借入金償還元金 | 75,000 | - | 75,000 | |
| 資本的収支差引 F = D - E | - | - | - | |

[附属市民総合医療センター]

1 主な収入の状況

| | 本年度 | 前年度 | 差引 |
|--------------|---------------|---------------|------------|
| 入院収入 | 12,952,176 千円 | 12,757,888 千円 | 194,288 千円 |
| 入院単価 | 55,853 円 | 52,200 円 | 3,653 円 |
| 年間入院患者数 | 231,898 人 | 244,404 人 | △12,506 人 |
| (1日あたり入院患者数) | 634 人 | 670 人 | △36 人 |
| 外来収入 | 4,084,560 千円 | 4,045,709 千円 | 38,851 千円 |
| 外来単価 | 9,300 円 | 8,926 円 | 374 円 |
| 年間外来患者数 | 439,200 人 | 453,250 人 | △14,050 人 |
| (1日あたり外来患者数) | 1,800 人 | 1,850 人 | △50 人 |

2 主な事業内容

- ◇災害医療拠点病院として災害時の受入体制の強化等、災害時医療の充実に取り組みます。神奈川DMAT（災害派遣医療チーム）※¹の指定を受けたことにより、災害発生時における医療支援体制の充実に貢献してまいります。
- ◇医薬材料管理業務の効率化、消費管理の徹底をより一層進めるため、新たな物流システムを構築してまいります。《新規》
- ◇市民の視線に立った医療提供体制の充実に図るため、診療科及び病棟の再編を実施し、地域医療へ一層貢献します。
- ◇「総合周産期母子医療センター」※²の指定を受け、地域の周産期医療機関との連携強化、地域医療者の人材育成等へ一層貢献します。

※1 DMAT (Disaster Medical Assistance Team)・・・

災害発生時における医療支援体制の充実強化を目的として、神奈川県内外で大規模災害が発生した場合、救出・救助部門と合同し、専門的な訓練を受け機動性を持った災害派遣医療チームを派遣することについて、18年度に県の指定を受けました。神奈川県内で他に7医療機関が指定されています。

※2 総合周産期母子医療センター・・・

内科、外科、精神科など、専門診療科との連携を図りながら、合併症を持つ妊婦さんでも、妊娠中から産後まで診療する機能を有し、なおかつ、最重症の新生児ケアを行うことができる第三次医療施設。

神奈川県では、神奈川県立こども医療センター、北里大学附属病院、東海大学医学部附属病院の3施設が指定を受けています。

【参考 1】運営交付金の考え方

法人においては、中期計画で運営交付金の考え方を以下のとおり整理し、この考え方を積算基準として横浜市から運営交付金を交付されています。

1 大学

大学の経費を「学費対象経費」と「学費対象外経費」に分け、

(1) 「学費対象経費」については、その財源として、

①国の私立大学への補助金相当額、

②私立大学との授業料格差相当分を基準として運営交付金を算定する。

(2) 学費対象外経費については、横浜市と法人で個々の事業ごとに調整し、運営交付金を交付する。

(地域貢献など市の施策に基づき実施している事業費、市が負担する退職手当及び施設整備費相当額)

(3) 基準を超える経過措置としての運営交付金は、平成22年度までの解消を目指す。

| | 17年度(予算) | 19年度(予算) | 22年度(予定) |
|--|----------|----------|----------|
| 学費対象経費及び学費対象外経費分 | 7,178百万円 | 7,214百万円 | 7,121百万円 |
| 経過措置分(基準を超えた額) | 637百万円 | 528百万円 | — |
| 中期計画に基づく分 | 7,815百万円 | 7,742百万円 | 7,121百万円 |
| 19年度の学費対象外経費追加分 ・市の重点施策として実施する「先端医科学研究センター整備」、 「重粒子線がん治療にかかる人材育成」にかかる上乗せ分 及び市が負担する退職手当の上乗せ分 | — | 99百万円 | — |
| 目的積立金を財源充当したことによる運営交付金削減分 | — | △394百万円 | — |
| 大学 合計 | 7,814百万円 | 7,447百万円 | 7,121百万円 |

2 附属2病院

(1) 民間病院と同様の医療は、民間病院への補助等に準拠する。

(2) 市立病院等が果たすべき役割として実施しているものは、事業の役割を客観的に把握した上で、廃止または見直しを行う。

(3) 公営企業の性格上市立病院に一般会計から繰り入れられているものについては、同様に国に定める基準等に準拠する。

(4) 教育・研究など大学病院の特性については、積算の考え方を明確化する。

| | 17年度(予算) | 19年度(予算) | 22年度(予定) |
|-------------------------------------|----------|----------|----------|
| 中期計画に基づく分* | 3,672百万円 | 3,228百万円 | 2,972百万円 |
| 19年度の追加分 ・「医師不足診療科対策の推進」にかかる上乗せ分 | — | 90百万円 | — |
| 目的積立金を財源充当したことによる運営交付金削減分 | — | △299百万円 | — |
| 附属病院 合計 | 3,672百万円 | 3,020百万円 | 2,972百万円 |
| 中期計画に基づく分* | 2,721百万円 | 1,747百万円 | 832百万円 |
| 目的積立金を財源充当したことによる運営交付金削減分 | — | △206百万円 | — |
| 附属市民総合医療センター 合計 | 2,721百万円 | 1,541百万円 | 832百万円 |

※「中期計画に基づく分」は、法人化後に横浜市との調整により変更されています。

【参考 2】平成19年度 収支計画

(単位:百万円)

| | 法人全体 | | | |
|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| | 大学 | 附属病院 | センター病院 | |
| 経常費用 | 50,026 | 11,473 | 18,616 | 19,937 |
| 業務費 | 47,120 | 9,949 | 17,698 | 19,472 |
| 教育研究経費 | 2,779 | 2,779 | - | - |
| 診療経費 | 18,274 | - | 9,040 | 9,234 |
| 受託研究費等 | 547 | 368 | 84 | 95 |
| 人件費 | 25,520 | 6,802 | 8,575 | 10,143 |
| 一般管理費 | 1,119 | 1,119 | - | - |
| 財務費用 | 52 | 6 | 33 | 13 |
| 雑損 | 1 | - | 1 | - |
| 減価償却費 | 1,734 | 398 | 884 | 451 |
| 経常収益 | 49,716 | 11,486 | 18,446 | 19,784 |
| 運営交付金収益 | 11,808 | 7,399 | 2,868 | 1,541 |
| 授業料収益 | 2,391 | 2,391 | - | - |
| 入学金収益 | 249 | 249 | - | - |
| 検定料収益 | 92 | 92 | - | - |
| 附属病院収益 | 32,518 | - | 14,895 | 17,623 |
| 受託研究等収益 | 1,084 | 902 | 84 | 98 |
| 雑益 | 725 | 227 | 232 | 266 |
| 資産見返負債戻入 | 850 | 226 | 368 | 257 |
| 当期純損失 | △310 | 13 | △170 | △152 |
| 目的積立金取崩収入 | 322 | - | 170 | 152 |
| 当期総利益 | 13 | 13 | - | - |

【参考 3】横浜市一般会計が承継した横浜市立大学に係る市債の状況

| 平成17年度末 現在高 | 平成18年度末 現在高見込額 | 平成19年度中 元金償還見込額 | 平成19年度末 現在高見込額 |
|----------------|-------------------|--------------------|-------------------|
| 95,591百万円 | 91,278百万円 | 4,513百万円 | 86,765百万円 |